

「ふるさと沼田のよさや課題に気づき、自分にできることを考え、実行できる児童の育成」
～体験的活動とシンキングツールを取り入れた総合的な学習の時間における実践を通して～

I 主題設定の理由

学習指導要領の総合的な学習の時間における目標の1つに、「実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする」とある。また、本年度から本市では、地域を愛し親しむ心、誇りに思う心を育むために、地域の資源や人にふれながら、体験的・探究的・協働的に、ふるさと沼田を知り、よさを学ぶ「ぬまた未来創造学」を推進している。特に総合的な学習の時間において、地域と協働し、児童が自ら考え、行動し、生きる力を育むことが求められている。

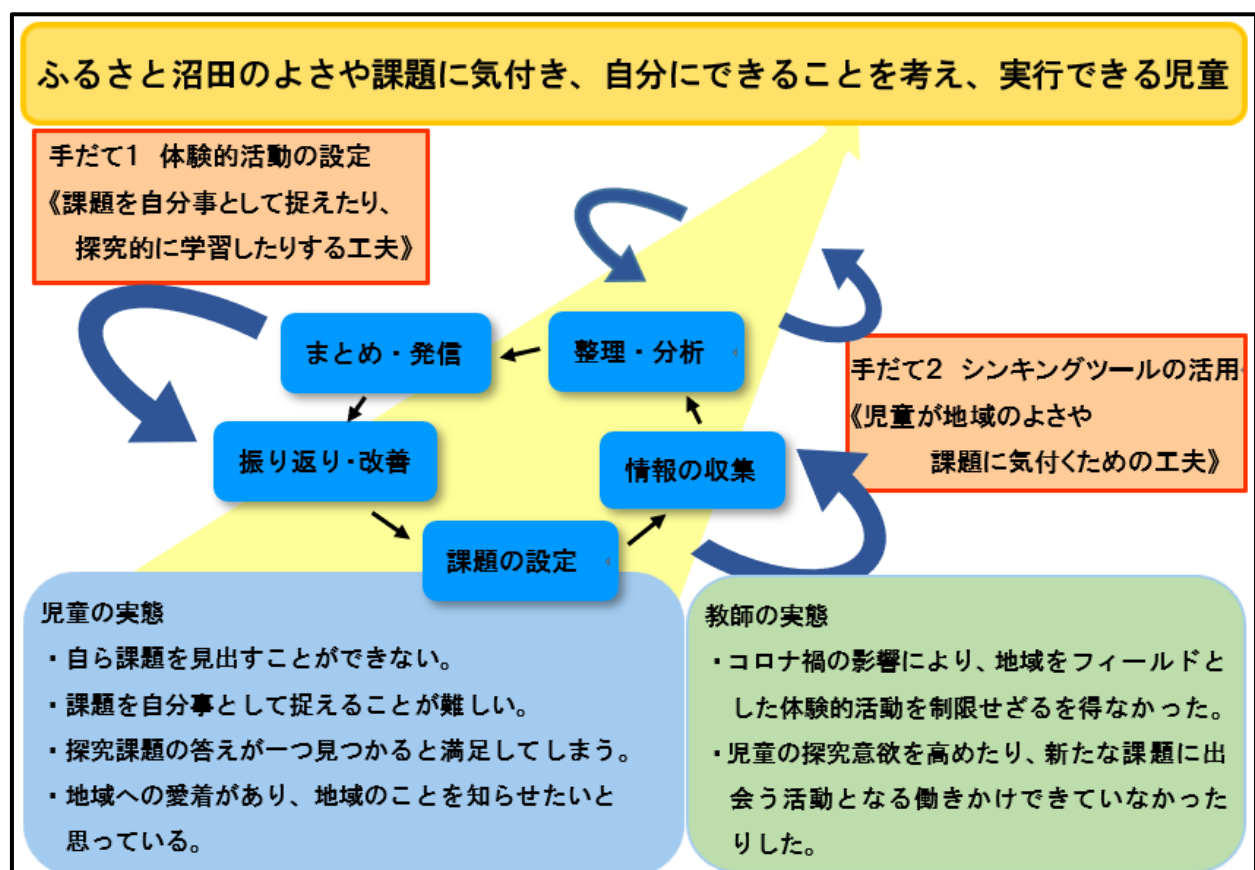
これまで学校では、「沼田大好き！ふるさと学習」に基づき、郷土への理解を深める取組を行ってきた。しかし、ここ数年は新型コロナウイルスの流行により、地域をフィールドとした活動が制限され、課題を自分事として捉えることや、探究的な学習が発展的に繰り返されることができていない現状があった。また、児童が探究意欲を高められるような課題と出会う活動を設定したり、情報を整理・分析するなどして、自分たちに何ができるかという視点をもって活動したりできるように、教師が児童に働きかけていくことに課題がみられた。

そこで本研究では、児童がふるさと沼田のよさや課題に気づき、自分にできることを考え、実行できるように、総合的な学習の時間において、体験的活動の設定とシンキングツールを手立てに取り入れた授業実践を行うこととした。教師が体験的活動を意図的に設定することで、児童が課題を自分事として捉え、自ら問題意識や活動のめあてをもって取り組めるようにする。また、児童へのアンケート結果から、多くの児童は「地域のことについて様々な人に知ってもらいたい」と考えているため、地域の実情を踏まえた体験的活動を設定することは、児童が自分にできることを考えていく上でも効果的であると考えた。さらに、シンキングツールを活用し、情報を整理・分析することで、地域のよさや課題に気付いたり、やりたいことや追究したいことを明確にしたりして、常に児童自身が興味・関心をもちながら学習できるようにしていく。

以上のことから、体験的活動の設定とシンキングツールを取り入れた実践を通して、ふるさと沼田のよさや課題に気づき、自分にできることを考え、実行できる児童の育成を目指し、本主題を設定した。

II 研究の内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

【手立て1】体験的活動の設定

総合的な学習において、児童が課題を自分事として捉えるために、教師が体験的活動を意図的に設定し、自ら問題意識や活動のめあてをもって取り組めるようにする。また、体験的活動の計画に当たっては、「ぬまた未来創造学」の趣旨を踏まえ、地域の資源と人にふれる学習活動となるようにし、郷土への誇りと愛情を育ませる。また、体験的活動が目的化しないために、体験的活動を実施する際には、教師はねらいを明確にしたり事前準備を工夫したりして、児童が自ら問題意識や活動のめあてをもち、探究的に取り組むことができるようにする。

【手立て2】シンキングツールの活用

児童が地域のよさや課題に気付いたり、新たな課題を設定したりできるように、X チャートや Y チャート、座標軸などを用いて探究課題について知っていることを整理する。

整理・分析の場面において、クラゲチャートやくまでチャートを用いて、課題に対する解決策や班ごとのアイデアをまとめる。また、ダイヤモンドランキングやピラミッドチャート、同心円チャートを用いて、出てきた解決策や班ごとのアイデアの優先順位、自分たちにできるかどうかの検討を行う。もしくは、X チャートや Y チャートを用いて、出てきた解決策や班ごとのアイデアの分類を行う。

Ⅲ 成果と課題

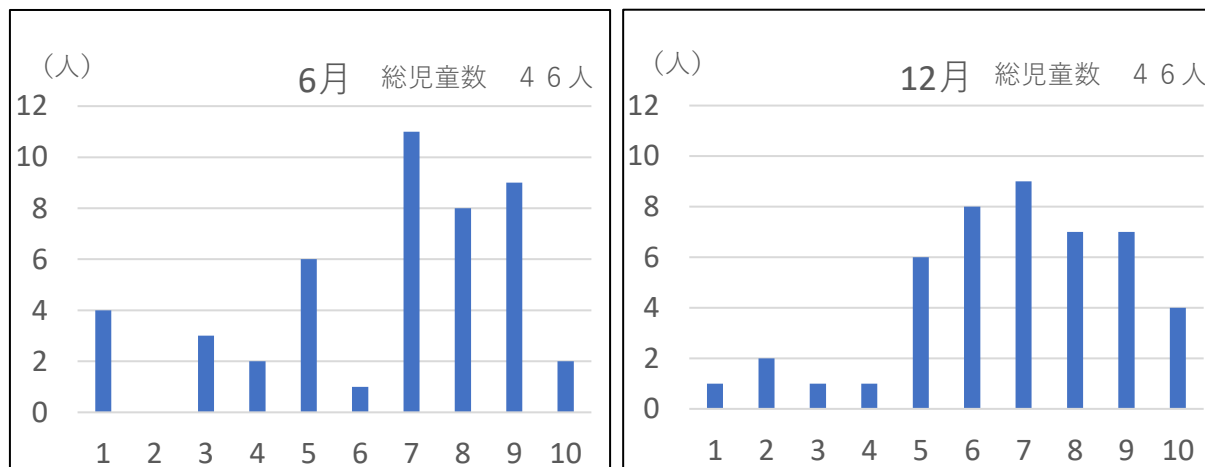
1 成果

(1) 手立て1「体験的活動の設定」に関わる成果

【アンケート結果①】

(調査対象：所員・研究員担当クラス児童46名(以下同様))

○「まとめたり、発表したりした後に、さらに知りたい調べたいと思ったり、解決したいと思ったりすることはありますか。」(10段階の自己評価)



- ・上記の6月と12月のアンケート結果を比べると、10段階の自己評価で、4以下の下位群の児童数が減少し、6以上の上位群の児童数が増加していた。
- ・体験的活動を積極的に取り入れたことにより、課題を自分事として捉える児童が増え、進んで活動に取り組むことができるようになった。また、探究課題の答えを一つ見付けて満足することなく、課題に対して新たに調べたり、解決したりしたいと思う児童が増えた。

【アンケート結果②】

○「体験的活動(旅行、見学、インタビューなど)が好きな理由は何ですか。」

〈6月〉

- ・面白いから。
- ・楽しいから。
- ・みんなでいろいろなことを知るの楽しいから。
- ・息抜き。
- ・学校ではない場所に行けて楽しいから。

〈12月〉

- ・実際にその場所に行って話を聞くことで、更に良く分かるから。
- ・自分の知りたいことを詳しく知ることができるから。
- ・インタビューをすると、インターネットでは分からないことが分かるから。
- ・実際にものを見たり触れたりすることによって、考えを深めることができるから。
- ・知らないことについて、偽物のことが書いてあるかもしれないインターネットを見るより、本人から話を聴いたり実物を見られたりするから。
- ・旅行、見学、インタビューをすると知らないことを学べるから。
- ・楽しみながら学習をできたり、実際に行って必要なことを学んだりできるから。
- ・直接聞いたり、体験したりすることで理解力が深まるし、楽しいから。
- ・体験したことないことを体験できるし、行かないと知れないことが何でも分かるから。

- ・教師が体験的活動を意図的に設定し、ねらいを明確にして事前準備をしたことで、児童が自ら問題意識や活動のめあてをもって取り組めるようになった。また、地域の身近な人との関わりや現地への見学を通して、資料やインターネットでは分からなかったことを解決することができていた。

【アンケート結果③】

○「実際に体験したり、話を聞いたりしたことで、新たに考えたり、気付いたりしたことはありますか。」

〈6月〉

- ・ない。
- ・特にない。
- ・インタビューは難しい。
- ・卓球教室のときに、話を聞いて自分もやりたくなった。
- ・お年寄りは大変だということが分かった。

} 約30%

〈12月〉

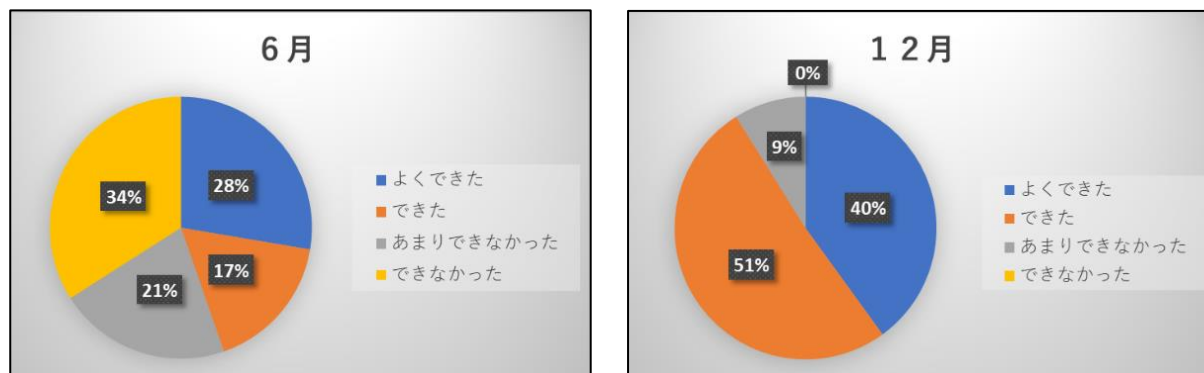
- ・ない。 ⇒ 約8%
- ・尾瀬に遠足で行ったときに、ゴミを捨てられないようにいろいろな活動をしていることに気がつけた。
- ・尾瀬高校の生徒に意見やアドバイスをもらい、自分のアイディアを更に良くすることができた。
- ・話を聞いた人の気持ちを知ることができた。
- ・点字教室で実際にやってみたらすぐに覚えられたし、Kさんや、Hさんにお話を聞いたりして、障害の人にも差別しないで、「周りの人と同じ接し方をしていこう!!」と思った。
- ・実際に聞いたり経験したりすることで、資料を見るだけでは分からなかったところにも気付いて、新しいアイディアなどが思い浮かんだりしたことがある。
- ・インタビューをして、池田に昔からある歴史などがあることを知ってとても調べたくなった。
- ・タブレットで調べるよりも分かりやすいと気付いた。
- ・自分では気付かない問題がたくさんあった。

- ・体験的活動を多く取り入れたことで、新たに考えたり、気付いたりしたことがある児童が多くなっていた。総合的な学習の時間に対する児童の関心が高まり、わくわく感をもって活動に取り組むことができていた。

(2) 手立て2「シンキングツールの活用」に関わる成果

【アンケート結果④】

○「シンキングツールを使って、調べたことを分類したり、比べたりしたことで自分の考えを整理できましたか。」



- ・上記の6月と12月のアンケート結果を比べると、「よくできた」「できた」と答えた児童の割合が 45%から 91%に増加していた。
- ・情報の分析・整理などの場面でシンキングツールを繰り返し用いたことによって、児童は課題に対して多角的・多面的に思考することができた。また、シンキングツールを用いて話し合いを行うことによって、何について話し合うのか目的が明確になり、一貫性のある話し合いができた。(ピラミッドチャート→順位付け、Xチャート→分類)

【アンケート結果⑤】

○「シンキングツールを使った感想を教えてください。」

〈12月〉

- ・いろいろな種類があるから分かりやすいし使いやすい。
- ・考えをきれいにまとめられたり、分かりやすくなったりするのでとてもいい。
- ・自分の意見だけでなく友だちの意見もまとめやすくてよかった。
- ・グループでやったり、個人でやったり、色々学べて整理できたので、シンキングツールをまた使いたいと思った。
- ・シンキングツールは、調べたことを分類したり、比べたりできるから、活動がしやすかった。
- ・自分や皆の意見をまとめて、もう一度資料を見たいときにとっても分かりやすかった。
- ・どうやって分けるかを知っておけば、簡単に分けられるのが分かった。
- ・みんなが見やすいのがYチャートやXチャートだと思った。

- ・シンキングツールを用いて児童一人一人の考えを可視化できたことにより、友達の考えと自分の考えとの比較がしやすくなったり、情報の共有によって考えが広がり、新たな気づきが生まれたりした。

2 課題

- ・体験的活動を行った時に、教師の意図することとゲストティーチャー等との認識がずれていて、その後の学習に生かしきれないことがあった。そのため、体験的活動を取り入れる際には、教師側の意図やねらいを明確に伝え、共通理解する必要がある。また、そのための打ち合わせの時間を生み出す工夫が必要となる。
- ・シンキングツールの使用については、1時間に複数のシンキングツールを用いると、児童の思考が複雑化してしまい、活動のゴールが見えにくくなるがあった。そのため、1時間に使用するシンキングツールを1種類とすることが望ましいと考える。
- ・手立て1, 2を講じて、児童が継続して相手意識をもって活動したり、常に自分事として興味関心をもって課題を追究したりすることが難しい場面が見られた。児童が探究課題に出会う場面で、課題の設定に必要な感や目的意識がもてるようさらに工夫したり、児童に付けたい力を明確にしつつ、児童の思いや願いに寄り添えるように、単元の構想を見直したりする必要があると考える。

Ⅳ 研究の実践

実践例 1 6年 総合的な学習の時間

沼田市立多那小学校 教諭 井上 駿

1 単元名「知って、考えよう！多那のこと」

〔探究課題 多那の過去・現在・未来と自分たちの生活〕

2 単元の構想

(1) 単元の目標及び児童の実態

単元の目標	水を得るための多那の人々の苦労を調べ、ふんだんに水が使える今日の生活のありがたさを知ることを通して、身の回りの環境や地域の歴史について理解するとともに、自分や周りの人々が多那のためにできることを考え、実行できるようにする。		
児童の実態	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	多那にはかつて大きな水害があり、その際に学校が現在の場所に移転してきた歴史については5年生の時に学んでいる。しかし、多那の水の流れなどまだ知らないことは多い。	体験や見学では関心をもち、よく観察している児童が多い。また分かったことや考えたことを自分なりにまとめることができている。しかし分かったことを自分事として捉え、何かできることはないか考える児童は少ない。	課題や知りたいことに対して、調べたり、体験したりして答えを見つけているが、そこから新たな課題や疑問を見つけることは難しい。ただ、さらに知りたいことはあるようだが、何をすれば良いか分からず、行動できていない。

(2) 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①水を得るための多那の人々の歴史や苦労について調べたり、体験したりして地域への理解を深めている。 ②多那の水や歴史、多那野菜について情報を集める方法や情報を伝える方法が分かり、探究の過程に応じて適切に選択し、使うことができる。	①多那の水や歴史に関する探究課題に対して解決方法や手順を考え、調べたり、聞いたり、体験したりして分かったことや考えたことを、伝えたい相手のことを考えながら工夫してまとめ、表現している。 ②多那の水や野菜について分かったことや考えたことをもとに、自分たちができることはなにかを考えている。	①課題や分かったことに対して、常に疑問や自分なりの考えをもち、興味・関心をもって探究的に取り組もうとしている。 ②自分に身近な課題や地域の課題に対して、他者と協働して自分にできることを検討し、実践しようとしている。

(3) 探究課題の価値

多那地域が含まれる赤城西麓は昔から水にあまり恵まれず、農業用水や飲料水の取り込みに苦労してきた。しかし現在は様々な努力や工夫により、水利施設が整備され、水の安定的な確保及び供給を行うことができている。水利施設の一つである調整池は、児童にも身近な校区内にある。

そこで、調整池の役割や多那地域の歴史・過去の苦労について、見学や体験的活動を通してすることで、自分の住む地域への理解や関心を深めることができると考える。また多那の水に関する歴史や課題への理解が深まれば、普段当たり前に使っている水の大切さにも気付くことができると考える。さらに多那の水で育つ野菜を生産している農家の方の願いや困りごとについて、自分たちにできることを考えることで、地域のために貢献できる嬉しさや地元多那野菜の魅力を知り、伝えていきたいという気持ちになると考える。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全 25 時間）

	時	学習活動	知	思	態
つかむ	1 ～ 4	探究課題と出会い、単元の課題を把握する。 4 時間 - 自分たちが普段どこで、どのくらいの水を使っているのか予想したり、調べたりして、毎日大量の水を使用していることを実感する。 - 多那と、多那と異なる環境の地域（川場など）の地図を見て、多那に田が少ないことや川がないことなど、多那地域が水に恵まれない場所であることに気付く。 単元の課題：多那の水のことを知って、自分にできることを考えよう。 単元名：知って、考えよう！多那のこと！			①
		単元の課題に基づき、各自で課題を設定し、追究する。12 時間 【課題の設定】 - 多那の水に関連した、多那の過去や現在について知りたいことや地域について理解を深めたいことを考え、個別のテーマを設定する。 - 自分のテーマに迫るために何を知る必要があるのか自分で考えたり、意見交流会をしたりして明確にする。 課題①：知って、考えよう！多那の水！ 【情報の収集】 - 過去や現在の課題・取組やテーマの追究に必要な情報について、資料で調べたり、地域の方々にインタビューしたりして収集する。（図 1）	①	①	①
追究する①	5 ～ 16	 図 1 地域の方へインタビューの様子（iii） - 利根調整池、根利川取水口に行き、農業用水の取り込み方や流れの仕組、現在の取組を見学・調査する。（図 2）（i）  図 2 根利川取水口・利根調整池見学の様子 - 聞いて分かったこと、調べたことをまとめたプリントにまとめておく。 【整理・分析】 - 自分のテーマについて聞いたこと、分かったことや考えたことなどを、クラゲチャートなどを使って整理・分析する。（あ） 【まとめ・表現】 - まとめ方を決める。（Google スライド、Canva、ロイロノートなど） - 自分の設定したテーマについて自分が決めたまとめ方でまとめ、他学年や保護者、地域の方々に発信する。（図 3）（a）（b）  図 3 学校公開日に発信する様子	②	②	②

新たな課題を見だし、継続して追究する。 7時間

【課題の設定】

- ・多那の水を使う農家さんに、働く上での「願いや困りごと」を聞く。身近な人（親族など）にもインタビューする。（図4・図5）（あ）（ii）（iii）



図4 地域の農家さんへのインタビュー

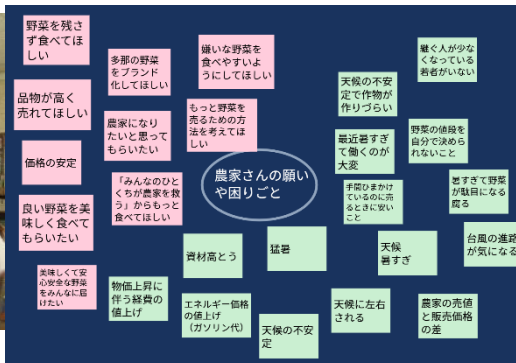


図5 まとめたウェビングマップ

課題②：農家さんのために、多那野菜を使ったレシピを考え、みんなに伝えよう。

- ・農家の方の「願いや困りごと」などの話をもとに、ダイヤモンドランキングや座標軸を用いて、農家の方のためにできることを考え、単元の課題を設定する。（図6）（あ）

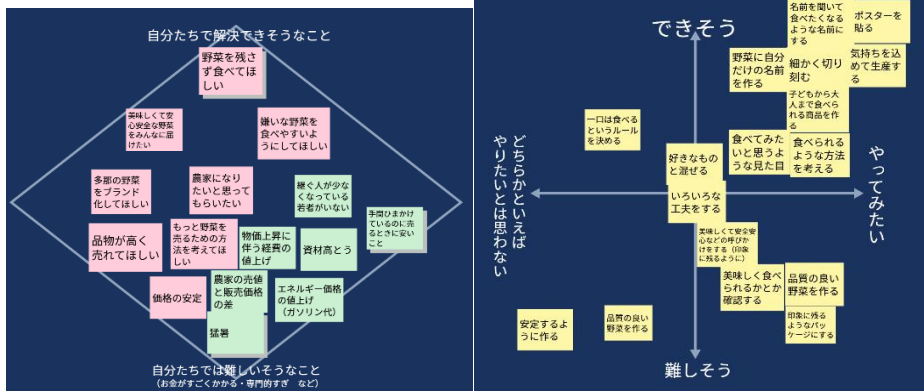


図6 分類に用いたダイヤモンドランキングと座標軸

- ・テーマに迫るために何をする必要があるのか明確にして、ダイヤモンドランキングで優先順位をつけ、学習の見通しを立てる。（あ）

【情報の収集】

- ・地域や農家の方にインタビューをしたり、アンケートをとったりして情報を集め、多那の水で育つ野菜やそのよさや魅力を調査する。
- ・他学年に、多那の野菜の中で苦手なものを聞き、使う多那野菜を決める。
- ・レシピの作り方について、本やインターネットを使って調べる。
- ・苦手な食べ物が食べられそうな調理方法を調べたり、考えたりする。
- ・どこに、どのように発信すると効果的か地域や農家の方にインタビューして調査する。（iii）

【整理・分析】

- ・収集した情報をもとに、調理を実践し、試食会を開いて感想をもらい、実現可能性や味などを分析する。（図7）
- ・調べたり実践したりして発見した苦手な野菜の食べ方について、座標軸を使って、難易度や食べやすさを視点を整理する。（図8）（あ）

【まとめ・表現】

- ・自分たちが考えたレシピをリーフレット等にして、地域のお店や農家に発信する。アンケートを使い、意見ももらう。（a）



図7 調理の様子

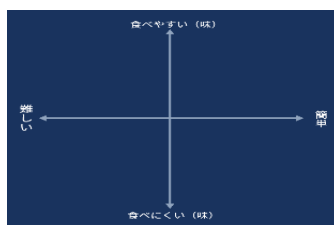


図8 分析する座標軸

まとめる	24	単元全体の学習の振り返りをする。 2時間	①	②	
	25				

*活用する学習支援ソフト等：(あ) ロイロノート

*活用するコンテンツ等：(a) Canva (b) Google スライド

*関わる外部人材等：(i) 赤城西麓土地改良区 (ii) 地域学校協働活動推進員 (iii) 保護者や地域の方

4 成果と課題

(1) 成果

①手立て1に関わる成果

- ・追究する①の情報収集の際に、現地への見学という体験的活動を取り入れたことで、資料や地域の方の話だけでは分からなかったことを解決することができた。
- ・インタビューや見学に行く際には、事前にある程度自分のテーマについて調べたことで、聞きたいことや知りたいことが明確になり、自分事として目的をもって話を聞いたり見学したりすることができた。
- ・追究する②において、導入の段階で農家の方にインタビューする時間を設けた。事前に農家の方と打合せを行い、単元の流れや教師側の意図をきちんと伝えたことで、児童の新たな課題設定に繋がる学習となった。

②手立て2に関わる成果

- ・追究する①で、まとめに向けた情報の整理の際に、クラゲチャートを用いて必要な情報の取捨選択やまとめていく順序を整理させたことで、まとめがスムーズに進んだ。
- ・農家の方の願いや困りごとに対して、自分たちにできそうなことと難しいことを、ダイヤモンドランキングを使って順位付けしたことで、解決への具体策を話し合いながら整理することができた。
- ・追究する②における具体的な課題を設定する場面で、座標軸を用いて、「やってみたい」、「やりたいとは思わない」、「できそう」、「難しそう」という項目で整理したことで、児童の「やりたいこと」等が明確になり、課題の設定に生かすことができた。
- ・課題の追究に向けた見通しを立てる際にも、ダイヤモンドランキングでの順位付けは効果的であった。

③その他の成果

- ・他学年や地域の方に発表し、質問や感想をもらう機会を設けたことで、児童が自分では気付かなかったことや新たな課題の発見に繋がった。

(2) 課題

- ・つかむ場面では、体験的活動を取り入れなかったが、ゲストティーチャー等に話をしていただく機会を設定して、自分たちが住む地域を理解したり、児童がより自分事として主体的にテーマを設定したりすることも効果的であると考ええる。
- ・インタビューや見学の際に集めた情報を整理したり、まとめたりしたときに、児童らに新たな疑問点が生まれたが、すぐに確認できないことがあった。そのため、協力してくださる相手と何度も関われるような長期的な協力体制を整える必要がある。
- ・学習を進めていく中で、児童が相手意識や目的意識を見失ってしまうことがあった。自分事化され、主体的な学習にするためにも、誰のために、何のためになどを常に意識させたり、児童にとって必要感のある課題設定をしたりすることが大切であると考ええる。

1 単元名「鎌倉と私たちの地域」

〔探究課題：鎌倉市の特徴について調べ、それを自分たちの地域活性化に生かそう〕

2 単元の構想

(1) 単元の目標及び児童の実態

単元の目標	・鎌倉市の、観光地としての特徴や歴史について調べたり、見学したりする活動を通して、鎌倉市のよさや、自分の住む地域との違いに気付くことができるようにする。 ・自分の住む地域の課題を見付け、鎌倉市の学習を生かしながら、地域の方へのインタビュー活動を通して、地域のために自分ができることを考え、協働してそのアイデアを発信することができるようにする。		
児童の実態	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	鎌倉市が全国的にも有名な観光地であることや、有名な食べ物などが池田地区と違うことを全員の児童が理解している。 池田地区の特徴や名物について、全員の児童が理解している。	課題の解決に向け、自分たちで見通しをもって取り組むことができる児童が多い。一方で、収集した情報を整理したり、精選したりすることに難しさを感じている児童もいる。	鎌倉市について、意欲的に調べようとする児童が多い。また、鎌倉市と自分たちの住む地域の違いについて、違いを進んで考えることができる児童もいる。 池田地区の現状や課題について、自分なりに考えようとする児童が多い。

(2) 評価規準

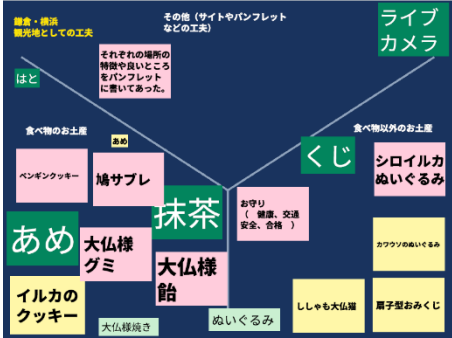
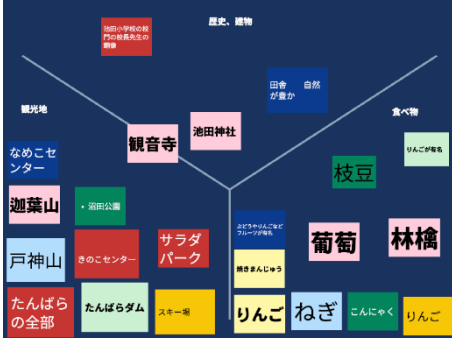
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①鎌倉市の歴史や文化について、また、池田地区の課題について情報を収集するための方法が分かり、集めた情報を自分の課題に合わせて用いることができる。 ②鎌倉市や池田地区について、その地域の特徴を知ることができる。 ③自分たちが学んだことを、分かりやすく伝える方法が分かる。	①鎌倉市を見学を通して確かめられたことや新たに分かったことをまとめ、発信することができる。 ②鎌倉市の学習や池田地区の方へのインタビュー活動を通して、これから自分たちが、ふるさである池田地区とどのように関わっていくかを考えることができる。	①鎌倉市と自分たちの住む地域の共通点や相違点に関心をもち、鎌倉市の歴史や文化について、また、池田地区の特徴や課題について粘り強く調べようとしている。 ②グループ活動では、友達と協力して調べたりまとめたりしようとしている。

(3) 探究課題の価値

児童は、5年生までの総合的な学習の時間の中で、池田のりんごや沼田城、玉原高原などについて学習してきた。自分たちが住む地域のよさを聞くと、子供たちはたくさんのよさを挙げる事ができ、地域への愛着をもっていることが伺える。しかし、地域への愛着があるものの、その気持ちを発信したり、地域をよりよくしようと考え、行動に移したりする機会を用意することができなかった。

そこで、県外の地域と池田地区との違いについて考えたり、池田地区の課題を知ったりすることは、自分たちが住む地域をよりよくしようと話し合い、実行することにつながると考え、本単元を設定した。また、地域の実情を踏まえた体験活動を、情報収集の手段として取り入れることで、児童が地域の方へのインタビューのなかで、実感をもって学ぶことができると考えた。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全 40 時間）

	時	学習活動	知	思	態
つかむ	1 ～ 2	探究課題と出会い、単元の課題を把握する。 2時間 ・修学旅行に行くことを知り、鎌倉市には何があるのかを予想し、話し合う。 ・池田についてのイメージを考え、児童の言葉をもとに課題を設定する。 単元の課題：鎌倉市の魅力について調べ、それを自分たちの地域活性化に生かそう。 単元名：鎌倉と私たちの地域			①
	追究する ①	3 ～ 20	単元の課題に基づき、各グループで課題を設定し、追究する。18時間 課題①：鎌倉市の魅力を調べ、池田との違いについて考えよう。 【課題の設定】 ・鎌倉市と、自分たちの住む地域にどのような違いがあるのか、鎌倉市の魅力は何かを考えながら、鎌倉市について調べる見通しをもつ。 【情報の収集】 ・インターネット、本、パンフレットなどを用いて情報収集を行う。 ・「観光スポット」「食べ物」「歴史」など、視点に分けて調べ学習を行う。 ・池田と比較できそうな視点を1つに絞り（今回は観光地としての工夫について）実際に鎌倉市を見学する。（a） 【整理・分析】 ・鎌倉市の「観光スポット」「食べ物」「歴史」など、児童の関心に合わせた視点に分け、見学で分かったことを含めて情報をYチャートに整理する。（あ）（図1） ・鎌倉市と同様のYチャートを用いて、池田についても知っていることを整理し、鎌倉とどれだけ違うかを考える。（あ）（図2）   図1 鎌倉市の観光の工夫 図2 池田にあるもの・特徴 【まとめ・表現】 ・鎌倉の魅力各班ごとにまとめ、他学年や保護者に発信する。（い）（b） ・作成する資料には、観光地としての工夫を含めてまとめる。	① ②	① ②
追究する ②	21 ～ 38	新たな課題を見だし、継続して追究する。 18時間 【課題の設定】 ・池田わくわくまつりの実行委員さんにインタビューをし、イベントを企画したきっかけや、池田に対する思い、願いを聞く。（図3） ・これまでの学習を振り返ったり、地域の方から話を聞いたりする中で、鎌倉市の学習を自分たちの地域にどのように生かすことができそうかを考え、課題を設定する。（い）（図4）			②



インタビュー内容（一部）

- ・イベントを始めたきっかけ
- ・イベントを行うまでに大変だったこと
- ・来場者を増やすための工夫

図3 わくわくまつり実行委員さんへのインタビュー

課題②：鎌倉市の学習を生かしながら、池田を元気に、みんなが楽しめる場所にしよう。

【情報の収集】

- ・玉原東急リゾートに勤める方の話を聞き、観光客を呼び込む工夫や、池田について感じる課題を聞く。(ii)(あ)(図5)
- ・玉原スキー場、ラベンダーパークのWEBサイトを見て、その工夫を調べる。

インタビュー内容（一部）

- ・観光客の数の変化について
- ・玉原の施設で売られているお土産



図5 玉原東急リゾート支配人の方へのインタビュー

- ・池田コミュニティセンターが発行しているお便りから、地元の方たちと交流させたり、楽しませたりする工夫を調べる。

【整理・分析】

- ・自分だったら、池田の観光業の分野でどのように池田の魅力を発信するか考え、友達と話し合い、よりたくさんのアイデアを出す。(図6・7)
- ・班ごとのアイデアを整理するために、Xチャートを活用する。(あ)
- ・自分たちで考えた、地域活性化のためのアイデアを誰に伝えたいかを考え、実現できそうなものから順位付けしてピラミッドチャートにまとめ、整理する。(あ)(図8)



図6



図6・図7 池田を盛り上げるアイデアを整理する様子

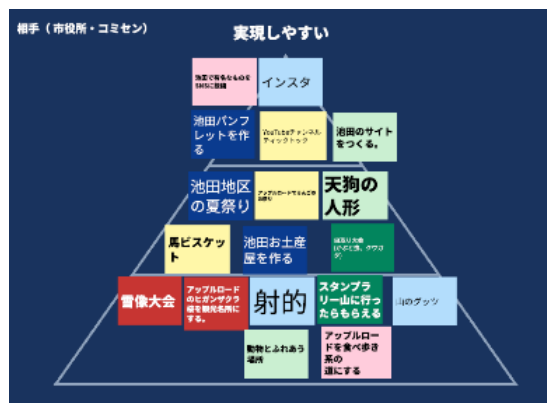
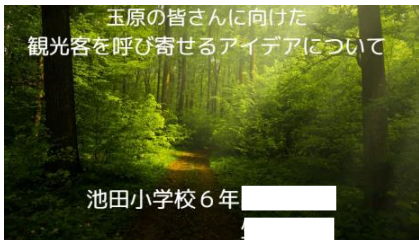


図8 池田を盛り上げるアイデアの実現可能性を考えたピラミッドチャート

【まとめ・表現】

- ・池田の魅力を発信する様々な方法を資料にまとめ、地域の方に伝える。(図9)(図10)(あ)(b)(i)(ii)

		 		②	
		図9 資料を作成する様子 図10 作成した資料の一部 ・アドバイスがいただければ、地域の方から返事をもらい、アイデアを見直したり、新たなアイデアを追加したりしていく。 ・見直したアイデアを、地域の方や他学年に向けて、資料の掲示や発表を通して発信する。			
まとめ	39 ～ 40	単元全体の学習の振り返りをする。 2時間 ・池田の未来について改めて考えたことを班ごとに（または個人で）振り返る。			

*活用する学習支援ソフト等：(あ) ロイロノート (い) グーグルスライド

*活用するコンテンツ等：(a) 鎌倉市観光協会HP (b) Canva

*関わる外部人材等：(i) 池田地区の方 (ii) たんばら東急リゾート

4 成果と課題

(1) 成果

①手立て1に関わる成果

- ・地域の方へのインタビューを取り入れたことにより、児童が、池田地区の課題を自分事として捉え、自分たちで課題を設定することができた。
- ・観光地の工夫という視点をもたせて鎌倉市を見学したり、地域の方にインタビューをしたりすることによって、池田に観光客を呼び込むアイデアを、一人一人が具体的に考えられていた。
- ・地域の方へインタビューをする際に、授業の流れや、教師側の意図が相手の方に伝わっていたことで、児童が課題意識をもてるようなインタビューとなり、その後の活動に生かすことができた。

②手立て2に関わる成果

- ・グループの話し合いの場面で、XチャートやYチャートを用いて考えを分類することにより、児童の考えが可視化され、考えを整理したり、比較したりと、活動の取り組みやすさにつながった。
- ・考えを分類するときにはXチャート(Yチャート)、考えを順位付けするときにはピラミッドチャートなど、場面に応じてシンキングツールを用いることにより、児童が、話し合いのなかで何をすべきか、何のために話し合っているのかが明確になった。

③その他の成果

- ・児童が資料を作成した後、地域の方に見ていただき、感想やご意見をいただいたことで、双方向でのやり取りが実現し、児童の達成感や意欲に繋がった。

(2) 課題

- ・今回、体験的活動を取り入れる際に、相手の方の都合が合わなくなり、予定していた日程に授業を進められないことがあった。相手の方と連絡を密にとることや、場合によっては代替案も考えておく必要がある。
- ・XチャートやYチャートを用いて考えを分類する際、時間がかかることがある。そのため、話し合いの時間を十分に確保できるよう、授業の流れや、ICTを使うタイミングを吟味する必要がある。
- ・日頃から話し合いの仕方を練習させることにより、シンキングツールを用いた話し合いが、さらに活発なものになるといえる。自分の力で話し合いができるように、授業の中で繰り返し指導していく必要がある。

1 単元名 「障害のある人のことを知って、自分にできることを考えよう」

〔探究課題：心と社会のバリアフリー〕

2 単元の構想

(1) 単元の目標及び児童の実態

単元の目標	障害の種類や障害のある人の生活の困り感を調べたり、体験をしたりすることを通して、障害のある人の生活の困り感を理解し、現在・将来にわたって自分たちにできることを見付けて行動できるようにする。		
児童の実態	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	生活体験から、社会の中に障害のある人が生活をしていることを理解している。	障害のある人の生活の困り感について、インターネットを使って、必要な情報を選択して収集できる児童が多い。	障害のある人について考えたことを話し合う中で、互いの考えを認めながら、学習に進んで取り組もうとしている児童が多い。

(2) 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①障害のある人との交流を通して、相手を支えようとする思いやりや、相手に合わせた工夫が必要なことを理解している。 ②障害の種類を理解するとともに、障害のある人の生活の困り感に気付いている。 ③身の回りには障害のある人が生活しやすいような工夫がなされていることに気付いている。 ④障害のある人の生活の困り感について、話し合ったり、調べたりして、障害のある人もない人も暮らしやすい環境について理解できている。	①障害のある人の生活の困り感について考え課題を設定するとともに、解決の方法を考えている。 ②障害のある人の生活の困り感について、調べる方法や手段を選択して収集している。 ③障害のある人が生活しやすくするためにはどうすればよいか、調べたことから整理・分析している。 ④障害のある人のために自分ができることは何かを考えたことをまとめ、表現することができている。	①障害のある人について考えたことを、他者と話し合う中で、互いの考えを認めたり、自分の考えのよさに気付いたりしながら、学習に進んで取り組もうとしている。 ②障害のある人のために自分ができることを考える中で、自分と違う意見や考えのよさを生かしながら、協働して学び合おうとしている。 ③障害のある人のために何ができるのか、自分で考えたことを実践しようとしている。

(3) 探究課題の価値

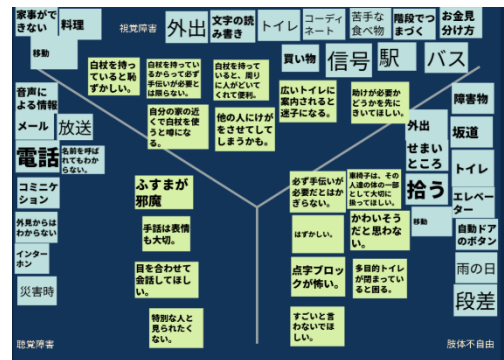
障害のある人を含むすべての人にとって生活しやすい社会にするためには、社会のすべての人が、障害や障害のある人の生活の困り感等を理解し、必要な配慮をしていくことが大切である。しかし現実には、無知や思い込みによる無意識な偏見や差別があったり、階段や段差などの物理的環境面で生活しづらい障害があったりする。

本学習では、障害のことや障害のある人の生活の困り感等について調べ、実際に話を聞いて体験することで、障害のある人への理解を深め、障害のある人への態度や心情について考えたり、自分ができることについて考えたりしていく。また、みんなが暮らしやすい社会について考えることで、ユニバーサルデザインや心と社会のバリアフリーの必要性について理解させていく。その後、自分ができることについて表現していくことで、社会の一員として実践できることに気付かせたいと考える。

なお、本学習の後、「障害のある人と共に生きていこう」という学習を行う予定であり、探究的に学習していく。

3 指導及び評価、ICT 活用の計画

	時	学習活動	知	思	主
つかむ	1 ～ 3	探究課題と出会い、単元の課題を把握する。 3 時間 ・1 学期に、インスタントシニア体験や車椅子体験したことを振り返り、社会には車椅子を使って生活している人がいることに気付かせる。(図 1) (図 2)   図 1 インスタントシニア体験 図 2 車椅子体験 ・「障害」について知っていることをウェビングマップを使って話し合う。 単元の課題 障害のある人のことを知って、自分にできることを考えよう。 単元名 社会における障害について知ろう			①
		単元の課題に基づき、各グループで課題を設定し、追究する。1 2 時間 【課題の設定】 ・ニュースでやっているパラリンピックから障害のある人のスポーツについて考え、課題を設定する。 課題① パラリンピックや障害のある方のスポーツについて調べよう。 【情報の収集】 ・インターネットを使って、パラリンピックや障害のある方のスポーツについて調べる。(a) (b) ・車椅子ソフトボール選手の方から話を聞き、インタビューや車椅子体験をする。(i) (図 3)  図 3 車椅子ソフトボール選手への方のインタビューの様子 【整理・分析】 ・調べたスポーツにおける共通点と相違点を見付けるため、内容を分類・整理する。 【まとめ・表現】 ・パラリンピックの種目について、なぜ 1 つの種目でも色々な分け方がされているのか考えまとめる。	①	③	①

追 究 す る ②	新たな課題を見だし、継続して追究する。14時間		
	【課題の設定】 ・ 障害の種類と障害のある人の生活について考え課題を設定する。	①	
	課題② 障害のある人が困っていることや思っていることを調べ、自分たちにできることを考えよう。		
	【情報の収集】 ・ インターネットを使って、視覚障害、聴覚障害、車椅子利用者、義手・義足の使用者について調べる。(a) (b) ・ 沼田市点訳奉仕会の人を招き、点字の読み方や打ち方を教わる。(i) (図4) ・ 視覚障害のある人から話を聞き、自分の名前を打った点字を読んでもらったり、インタビューしたりする。(i) (図5)	②	②
	 図4 点字教室の様子	 図5 視覚障害の方へのインタビューの様子	
16 ～ 29	【整理・分析】 ・ 調べて分かったことを、それぞれの障害ごとにYチャートを用いて分類する。(a) (図6)	③	
	 図6 児童から出た意見		
	【まとめ・表現】 ・ 障害のある人が困っていることや思っていることを、整理して話し合い、自分たちにできることをXチャートを用いて考える。(a) (図7)	②	
	 図7 Yチャート、Xチャートを用いて全体で話し合う様子		

追究する ③	30 ～ 42	新たな課題を見だし、継続して追究する。 13時間 【課題の設定】 ・障害のある人が困っていることに共通点や相違点があることから、社会全体で変わらなければいけないことに気付き、新たな課題をもつ。	③	①	
		課題③ 障害がある人もない人も暮らしやすい社会について考えよう。 【情報の収集】 ・障害のある人の生活を助ける道具や、私たちにできることを調べる。(b) ・ユニバーサルデザインについて調べる。(b) 【整理・分析】 ・学校や公共機関などの設備の工夫と、障害のある人と接する上での工夫や気を付けることを整理する。 【まとめ・表現】 ・家の人に来てもらい、これまで障害について調べたことや考えたことを発表し、みんなが楽しむことができるスポーツ（ボッチャ）を企画・運営して、一緒に活動する。(ii)			
まとめる	43 ～ 45	単元全体の学習の振り返りをする。 3時間 ・この単元で学習した「障害のある人たちから学んだこと・これからの自分」について作文を書く。 ・これからどう生きていきたいか、クラスで作文を発表する。			④

*活用する学習支援ソフト等：(a) ロイロノート

*活用するコンテンツ等：(a) NHK for school (b) インターネット

*活用する人材等：(i) 沼田市保健福祉協議会 (ii) 保護者や地域の方

(1) 成果

①手立て1に関わる成果

- ・インスタントシニア体験や車椅子体験、点字教室など多くの体験的活動を取り入れたことで、児童の福祉に対する興味・関心を高めることができた。また、インタビューや交流活動など、色々な方と触れ合う体験をしたことで、相手の気持ちをより実感することができた。
- ・体験的活動を多く取り入れたことで、障害のある人の困り感を身近に感じることもできたため、児童が主体的に学習し、自分にできることについてたくさんの意見を出すことができた。
- ・体験的活動をもとに、新たな課題を設定することができた。

②手立て2に関わる成果

- ・XチャートやYチャートを用いたことにより、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・情報の整理・分析の場面でXチャートやYチャートを取り入れたことで、児童は考えをツール上に表現することができ、友達と情報を共有することで考えを広げることができた。
- ・XチャートやYチャートを活用したことで、普段発言が少ない児童も自分の考えを視覚化することができ、グループ内で考えを共有することができた。

③その他の成果

- ・話し合いの際に、視点をもって話し合わせたことで、一貫性をもった話し合い活動ができた。
- ・ロイロノートの共有ノートを使ったことで、話し合いが活発になった。

(2) 課題

- ・体験的活動を行うときには、相手の方との打ち合わせで、教師のねらいや意図を明確にし、何をしてもらいたいのかを明確にし、相手の方にもしっかりと伝えておく必要がある。
- ・シンキングツールを活用する際には、教師のねらいや目的に応じてどのツールを使うのか、発達段階に応じて端末なのか紙なのか等を吟味しておくことが必要である。

1 単元名「利根町と東京をくらべよう」

〔探究課題：利根町と東京のよさを比較して、利根町のよさを広める方法を考えよう〕

2 単元の構想

(1) 単元の目標及び児童の実態

単元の目標	東京の歴史や文化、特徴について調べ、利根町と東京を比較する活動を通して、調べたことを分かりやすくまとめることができるようにするとともに、自分たちの地域との共通点や相違点に気づき、利根町の魅力を外部に発信することができるようにする。		
児童の実態	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	東京の文化や観光地をおおまかに理解しており、利根町の文化や魅力についても理解している。	課題の解決に向けて協力して情報の収集やまとめに取り組むことができる児童が多い。一方で、適切な情報の取捨選択をすることが難しい児童もいる。	東京について意欲的に調べようとする児童が多い。また、利根町に郷土愛をもち、利根町をよりよくしていきたいという気持ち強い児童が多い。

(2) 評価規準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	①計画に従って東京を見聞し、東京のよさと利根町のよさに気付くことができる。 ②自分たちが学んだことを、分かりやすく伝える方法が分かる。	①課題を明確にもち、自分たちの立てた計画に沿って、適切な情報を集めている。 ②課題を追究するための方法を工夫して、調査や見学を通して分かったこと、感じたことを効果的にまとめ伝えている。	①日本の首都東京の様子や歴史的背景に関心を持ち、進んで取り組もうとしている。 ②利根町の魅力を発信する方法を意欲的に考え、まとめようとしている。

(3) 探究課題の価値

日本の首都である東京は日本における政治・経済・文化の中心地であり、国内外から多くの観光客が訪れている。本単元では、東京の国立科学博物館と恩賜上野動物園の見学を行う。国立科学博物館は、地球や生命の成り立ちや、科学技術の発展の過程を分かりやすく展示している。また、数多くの資料を保管・情報発信をしているため、利根町の特色を保管・発信する活動に取り組む上で、非常に参考になると考えられる。恩賜上野動物園は、約 300 種 3000 点の動物を飼育しており、国内外から毎年約 391 万人もの人が訪れている。そのため、インターネット上での魅力の発信に優れている。また、動物を模したお土産が豊富で、利根町の魅力を発信するお土産作りをするときには、手本となると考えられる。

本校のある沼田市利根町は、自然が豊かで数多くの動植物が生息している。「吹割の滝」や「老神温泉郷」など観光名所となっている場所もいくつかあり、紅葉シーズンには多くの観光客が訪れている。一方で、全盛期に比べると観光客数は年々減少してきており、廃業する飲食店や旅館も増えている。それに伴い、過疎化が進み、人口は継続的に減少している状況である。

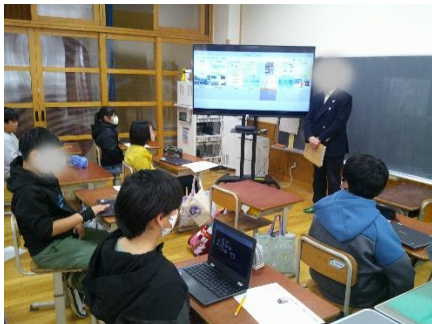
3 指導及び評価、ICT 活用の計画（全 35 時間）

	時	学習活動	知	思	態
つかむ	1	探究課題と出会い、単元の課題を把握する。 3 時間 1学期に行った伽羅苑へのインタビュー(図1)を振り返り、本単元で利根町に対して自分たちにできることの見通しをもつ。 - 東京と利根町の魅力を X チャート(図2)や AI テキストマイニングを用いて分類・比較して、利根町の特出した魅力や課題を把握する。(あ)(a)			①
	3				



図1 伽羅苑でのインタビューの様子

		自然 津波が来ない 自然 山 森 川遊び 植物 次割の滝 ゴミをポイ捨てしたら罰金 人さまり 高橋光成選手 利根保育園 キャンプ場 利根中 利根小 利根最高！ 追分祭り ヘビ祭り 歴史 ギネスのへび 海蔵寺 園原ダム 加羅苑 高橋光成選手が育った学校 建物 自然 東京湾 外国人 人口が多い 吉本興業 交通が便利 野山人が多い 正野アウトレックパーク 東京タワー 東京スカイツリー 東京ドーム 玉川兄弟 東京バナナ ハチ公 歴史 徳川頼吉 建物 図2 Xチャート(利根町の魅力) Xチャート(東京の魅力)				
単元の課題：利根町と東京のよさを比較して、利根町のよさを広める方法を考えよう。						
単元名：利根町と東京をくらべよう						
		単元の課題に基づき、課題を設定し、追究する。 12時間 【課題の設定】 ・東京と利根町の魅力を比較したことをふまえ、国立科学博物館や上野動物園の取組の中から利根町に生かせることの見通しをもつ。(あ) 【情報の収集】 ・国立科学博物館の保管・展示の仕方 や上野公園や上野動物園の観光客を呼び込む取組を調べる。(あ)(b)(図3) ・東京旅行でこれまでに調べてきたことを写真に撮ったり、インタビューをしたりして実際の取組の内容を記録する。 【整理・分析】 ・前時までに集めた情報や1学期のインタビューなどで収集した利根町の情報を参考に、利根町のよさを広める方法のイメージを作成する。(あ)(c) ・個人で考えたよさを広める方法をグループごとに紹介し、それぞれの案に対して質疑応答や改善点を話し合い、表にまとめる。(あ)(図4)(図5)  図3 東京旅行の様子  図4 グループごとの話し合いの様子				
追究する①	4～15		よかったところ 値段が書いてあっていいと思った サイズも書いてあっていいと思った 滝の流れるところも再現している！ 利根小学校ファイルがついてくる！ よく分からなかったところ・問題点 正面のサイズが大きすぎる なんの素材でできているのか ファイルの風景の種類が少ない 改善点 コンパクトなサイズもつける 素材も説明に記入する ファイルの種類をふやす 図5 話し合いで出た意見をまとめた表 【まとめ・表現】 ・グループでの話し合いの振り返りを行い、よさを広める方法の良い点や改善点を、ダイヤモンドランキングを用いてまとめる。(う)(図6) 図6 ダイヤモンドランキング 必ず改善した方が良いところ コンパクトなサイズもつける ファイルの種類をふやす 素材も説明に記入する 改善しなくても良いところ			

追究する②	16 ～ 33	新たな課題を見だし、継続して追究する。18時間 【課題の設定】 - グループでの話し合いをもとに、もっと調べたいことやより詳しく決めていきたいことを決め、よさを広める方法の最終的な完成形までの見通しをもつ。(あ)(c) 【情報の収集】 - 尾瀬高校の生徒(図7)や伽羅苑の方、老神観光協会の方などにインタビューを行い、利根町の現状や現在行っているPR方法などを調べる。(i)(ii)(iii) - ダイヤモンドランキングを用いて、集めた情報の中からよさを広める方法に生かせそうな情報を選択する。(あ) 【整理・分析】 - 地域の方へのインタビューをもとに、追究する①で考えたよさを広める方法に加除修正を加える。(あ)(c) - 保護者(図8)や伽羅苑(図9)、老神観光協会(図10)など地域の方々に自分たちで考えたよさを広める方法を紹介し、アドバイスをいただく。(あ)(i)(ii)(iii)     図7 尾瀬高校でのインタビューの様子 図8 保護者との交流の様子 図9 伽羅苑の方に紹介する様子 図10 老神観光協会の方に紹介する様子 【まとめ・表現】 - 地域の方々からのアドバイスをもとによさを広める方法を完成させる。(あ)	①	
		単元全体の学習を振り返る。2時間 - 完成したよさを広める方法の自己評価を行い、本単元の学習を振り返る。(あ)(図11) 良いところ・工夫したところ - 見やすいように写真を入れた。 - 文字の大きさや色を工夫した。 - 利根町や沼田市の有名な物をお土産にした。 - 不必要な説明を省略した。 - 東京のお土産の良いところを真似して作った。 分かったこと・学んだこと - 利根町と東京では東京の方が都会で人口も多いが、利根町は自然豊かで観光地がたくさんあり、それぞれに良いところがあると分かった。 - 商品の置き場所などの商品を売れやすくする工夫を学んだ。 - 伽羅苑や老神温泉の人、高校生など色々な人からアドバイスをもらうことで改良できると分かった。 図11 児童の振り返り	②	

*活用する学習支援ソフト等：(あ) ロイロノート

*活用するコンテンツ等：(a) AI テキストマイニング (b) 上野動物園 HP (c) 伽羅苑 HP など

*関わる外部人材等：(i) 尾瀬高校生徒 (ii) 伽羅苑職員 (iii) 老神温泉観光協会職員



児童の考えた利根町のよさを広める方法の例

4 成果と課題

(1) 成果

①手立て1に関わる成果

- ・1学期に行った地域の方へのインタビューをもとに課題の設定を行ったことで、児童が課題を自分事として捉えることができ、児童自身が単元全体の見通しをもって主体的に授業に参加することができた。
- ・東京旅行で、実際に行われている上野公園の観光客を呼び込む取組を見たり、利根町の現状を地域の方にインタビューしたりすることで、インターネットや本では得ることのできない情報を収集することができた。
- ・地域の方や尾瀬高校の生徒、保護者から「利根町のよさを広める方法」のアドバイスをいただくことで、小学生以外の視点からの意見を取り入れることができ、より実現可能性の高いものを作り上げることができた。また、児童が意見を参考にして意欲的に「利根町のよさを広める方法」を改善することができた。

②手立て2に関わる成果

- ・Xチャートを用いて東京と利根町の魅力を比較することで、視覚的に利根町の特出した魅力を見出すことができた。
- ・児童同士でそれぞれの「利根町のよさを広める方法」にアドバイスしあう活動において、表を用いてアドバイスをまとめることで、良かったこと・問題点・改善点のそれぞれに着目して発表を聞くことができたとともに、具体的な改善策を話し合うことができた。
- ・ピラミッドチャートを用いて、他の児童や地域の方々、保護者からの改善点を順位付けすることで、「利根町のよさを広める方法」を修正していく見通しをもつことができた。

③その他の成果

- ・単元の最終的なゴールとして、できるだけ具体的な「利根町のよさを広める方法」を作成したことで、児童のやりたいことややるべきことが明確になり、単元を通して意欲的に活動に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・つかむ場面で地域の方と交流する体験的学習を取り入れることができなかった。地域の方が困っていることや児童にやってほしいことなどを聞く学習を取り入れることで、より学習への意欲が高まるとともに、相手意識をもって活動に取り組むことができると考える。
- ・地域の方に学習内容の意図や視点が十分に伝わっておらず、体験的学習の一部が学習内容とは異なる内容になってしまうことがあった。事前に地域の方と綿密に連絡を取り合い、学習内容を正確に理解してもらうよう努める必要がある。
- ・個人のノートでシンキングツールを用いて作業をすると画面上の文字が小さくなってしまったため、机間指導で教師が児童の学びの様子を見取ることが困難であった。